（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	イルカ児童園　板橋区役所前教室			
○保護者評価実施期間	令和８年　１月　１６日	～	令和　８年　２月　２４日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	13名	（回答者数）	8名
○従業者評価実施期間	令和８年　１月　１６日	～	令和　８年　２月　２４日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年　2月　24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心・楽しみに通園してくれているなど子どもの満足度が高い点や子ども・保護者に寄り添って療育をしている点	子どもの目線にたち、気持ちに寄り添う様に対応しているしている。保護者に対しても、相談がしやすい様にFBの時間を十分に取っている。 また、手厚く療育を行えるように職員の人数も多く配置できるように工夫している。	保護者の方にも安心してもらえるように、ドアの窓で療育の様子を見学してもらう機会や、写真を通して日常の様子を見てもらう機会を作っていきたい。
2	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている点と「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がきちんとされている点	職員間での子どものFB時間を十分とり、子どもや保護者のニーズや課題の共通理解を深めている。計画の支援内容など時間を取ってわかりやすい言葉で伝えるように務めている。	計画と療育内容があっているかの説明が不十分なところがあるので、なぜその療育内容なのかをFBしていく。 また、発達段階などを一目でわかるように表などを作り掲示していきたい。
3	子どもに会った遊びや療育を提供している点	子どもたちが安心して過ごせるように、玩具や道具の位置を工夫している。 また、子どもが自分の荷物の出し入れがしやすいように、高さや場所などを工夫している。	広く体を動かしたり遊ぶスペースはあるので、子どものやりたい事へ集中して取り組めるようにスペースを区切り取り組める様にしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者のFBなどの場所など動線がぶつかってしまう点について	FBの時に玄関が狭くなってしまう。また、送迎の時間と重なってしまう事もあり動線が込み合ってしまう。	FBの流れや子どもの送迎時間などを工夫し、動線を整理していく。時間を取ってFBを行う場合には、個室に案内する等の対応を行う。
2	地域社会との連携があまりないことについて	地域との関わる機会が少ない。周りに、他の施設がなく交流する機会が少ない。また、学校との連携する機会も少なく学校での様子がなかなかわからない。	学校公開日に行くなど、子どもたちがどのように過ごしているか等を見に行き日々の療育に生かしていく。
3	遊ぶスペース・遊具について	体が大きくなり、遊具が小さいなど体に合っていないものもある。	運動面での課題の子もいるのでどんなものがあるとスムーズに行えるのかなど検討していく。